

敬愛短大附属幼稚園だより 10月号

日ごとに秋を感じるようになり、半袖にしようか、長袖にしようかと迷う時期になりました。優勢であった太平洋高気圧の勢力が少しずつ弱まり、寒気が南下を始めたようです。

年度当初からの新型コロナウイルスの収束の方向性もはっきりしないままの昨今ですが、9月の4連休では各地が賑わい始め、感染の拡大が心配されますが、国としても経済活動を停滞させるわけにもいかず難しい舵取りが求められています。

園では運動会の季節を迎え、園児たちは毎日歓声をあげて元気に園庭で練習に励んでいます。春の運動会が中止になり、秋の運動会をととても楽しみにしています。

また、先日のポートパークでの親子遠足の様々な催しで園児たちはとても楽しかったようです。年長さんの「梨狩り&動物公園遠足」ではたくさんのお土産を持ち帰ることが出来ました。少しずつですが以前の幼稚園生活に戻りつつあり、職員も園児たちの笑顔に癒やされる毎日です。

1 クラス内の問題をみんなで考え より良い方向に進む

特に年中から年長クラスでは、それぞれがやりたいことがこれまでよりはっきりしてくる年代です。そうした中で、クラス内での課題を見つけ、進む方向性の妥協点を求めてみんなで意見を出し合い、担任の援助を得ながら少しずつ自分をコントロールできるような学びをしています。

集団生活を通して園児たちはなかなか家庭ではできにくいことを園で身につけることが出来ています。こうしたことをきちんと幼稚園で身につけることはこれから先の小学校生活に向けて大切なこととなります。

時折、報道されたりするいわゆる“いじめ”問題も自分をうまくコントロール出来るかどうかで子どもたちの心を傷つけずに済むことが出来ると考えられます。強い心の自分と優しい心の仲間がたくさんいることが大切で、そうした集団を形成することがなによりも求められており、敬愛幼稚園では他を思いやることの出来る心を育てています。

2 出来たことをみんなで喜ぶ

園では、様々な「チャレンジ」と呼ばれる活動をしています。ことばのチャレンジや、鉄棒・登り棒のチャレンジ等もあります。先生の援助を受けながら練習をしたり、チャレンジの後押しを受けたり、できた時の園児たちの誇らしそうな顔を見るのがとても嬉しく思います。

チャレンジする時は必ず自分から「チャレンジをするので見てください」と自ら申告し、園長と副園長のどちらかの前で行います。たとえうまくいかなくても励ましたり、方法を一緒に考えたりしながら、一步一步目標に近づくようにしています。チャレンジ中は仲間の応援を受けている場面もたくさんあり、多くの園児たちが出来たときの喜びを共有することが出来ています。こうしたことも“他を思いやる心”へと繋がっています。



(園長 杉山清志)